



## ～夏季休業前 前期生集会 校長先生の話より～

まもなく夏休みに入ります。

今年の夏は、いつも以上の特別な夏になります。

昨年同様、コロナ感染拡大下における夏であるとともに、東京オリンピック・パラリンピック開催の夏でもあります。

開催の是非、観客の有無など今でも議論の乾くことのない、世界的な一大イベントの開催は、色々な意味で、人類の歴史に刻まれると思います。

昨年の夏と比べると、世界各国でのコロナ感染拡大の状況は大きく変わっています。ワクチン接種が進んだことでもあります。アメリカやイングランドなどでは、規制を解除するとの報道が流れています。

先日、NHKで、ハーバード大学政治哲学教授のマイケル・サンデル氏による「白熱教室 エリートたちよ 君の成功は努力の結果?それとも運?」が放映されました。

ここでは、中国トップの清華大学、アメリカのハーバード大学、日本からは、東大と慶応大学の学生たちがオンラインでつながり、サンデル氏の提起する問題についての議論を行いました。例えば、「ワクチン接種を国家が強制することの是非について」あるいは、「コロナ感染リスクを抱えて働く日常生活に必要な労働者、エッセンシャルワーカーへの待遇について」などです。

コロナ禍、医療従事者への感謝を示すブルーライトなどの取組があったことを知っている人は多いと思います。このほかにも、ウーバーイーツや買物代行業などのエッセンシャルワーカー労働者の賃金が安いことについて、その改善の必要を議論します。

その中で、中国では、エッセンシャルワーカーの子どもが受験のときに、優遇される、具体的には、加点されるという取組が紹介され、その是非についての議論になります。

みなさんはどう考えますか? コロナでリスクを負う仕事をしている人の子どもは、受験のときに、例えば10点加点されるという方法について。多くの学生は、それはおかしいと応えます。

また、アメリカで発覚したセレブが不正に入試を仲介してもらっていたという事件についての是非を問います。これについても、ほとんどの学生が間違っているといえます。

ここから、議論は、難関大学入試の公平性の話になっていきます。そして、参加者の多くが、難関大学に合格するために、大きな努力をしていることが紹介されます。一方で、各国の難関大学の合格者の親の収入のデータも示されます。例えば、東京大学であれば、日本の上位年収20%の親の子どもが、東大合格者の60%を占めているというのです。

ここでサンデルは問います。「みなさんが現在難関大学にいるのは、努力の結果ですか? それとも親の経済状況など運に恵まれたからですか?」

多くの学生は、「運である」と答えました。

この議論の詳細は、23日、BS1で再放送がありますので、興味のある人はご覧ください。

学歴社会による経済格差の拡大と、再生産は、いまなお解消はされていない、ある意味、拡大を続けているという見方もあります。

最近では、ヤングケアラーという言葉もよく聞きます。子ども、学生でありながら、家族の介護や家計を支えるために学業に集中できないという問題です。

一方で、経済格差とは異なるところでの、学習意欲格差もあります。

恵まれた環境にありながら、学習に意欲がわかない、やる気がでないということです。

学校は、この両方の課題に対応し、豊かな教育機会と体験の場を整えるとともに、一人一人が意欲的に学ぶことのできる風土・文化を創っていかなくてはなりません。

そのために、高志中等教育学校では、次のような場を設け、積極的な活用を勧めています。

一つは、サマーセミナーなど、学習補習の場の設定と工夫です。また、個々の学習状況や課題に対しての教育相談や進路相談などの個別指導の機会も大切にしています。ぜひ、効果的に活用してください。

また、土曜活用講座や生徒会の活動などでは、大学の先生や企業の社長さんなどによる質の高い講義を受けることができます。また、そこからのつながりで、個人のテーマ探究などについても、大学の先生や企業の専門家からのアドバイスや指導をいただくこともできるようになってきました。

学校の中だけでなく、様々なコンテストやコンクールの募集も来ています。こうした機会を効果的に活用することで、豊かな経験、出会いを得ることができます。

やる気や意欲が湧き出てくる学校とはどんな学校でしょうか？

私は、学校の文化・風土とは、生徒の在り方、仲間関係そのものであると思います。

一つは、多様性を尊重する学校、互いの個性や違いをきちんと受け止めあえる仲間関係のある学校です。

二つ目は、挑戦を大切にし、切磋琢磨する仲間関係のある学校です。

三つ目は、間違いや失敗を温かく受け止め、そこから互いに学び合える仲間関係です。

この三つの仲間関係が生み出す「安心」と「信頼」は、みなさんが自分の個性と可能性を最大限に発揮し、伸ばすために不可欠な学校風土であり、志の涵養を実現するための土壌でもあります。

経済格差が生まれる社会構造は、ある個人が即時的直接的には変えることはできませんが、それを緩和する教育の機会やサービスの充実は工夫できます。しかしそれ以上に大切なのは、チャンスに目を光らせ、それを逃さない、挑戦していく前向きな意欲、向上心です。この夏、たくさんの学びのチャンスがあります。ぜひ、多くのことに挑戦してみてください。この夏の挑戦が、あなたをより大きくたくましく成長させ、高志中等教育学校の「安心と信頼」の学びの風土をより確かなものにしてくれることを期待しています。

## ～SNS 利用上のモラルについて、今一度確認をお願いします～

夏の長期休業に入りました。1～3年生は前期生集会で、5～6年生は各学年の集会で、SNS 利用について次の話をしました。今一度確認し、トラブルを起こさない、巻き込まれないように十分に注意してください。保護者の皆さまにおかれましても、お子様の SNS 利用状況の把握やご指導をしていただけたらと思います。ご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

### 前期生集会、各学年集会の話より（概要）

夏休みを前に、夏休みの計画をたて、充実した夏休みにするために準備をしているところだと思います。充実した夏休みにするために、注意をしてほしいことがあります。それは、スマートフォン・タブレットの利用の仕方です。特に SNS の利用には十分に注意してください。

本校はこれまで、ICT を効果的に活用し教育活動を進めてきました。それに伴い、弁護士や専門家を招いての著作権や肖像権についての SNS 講演会を行い、情報リテラシーやマナーを大切にしよう指導をしてきました。今世の中の ICT 化が進んでいます。本校でも zoom での web 会議、学習動画や問題の配信など、これまでできなかったことが可能になってきました。また、生活規律委員会が中心となり、自分たちでスマートフォン・タブレットの使い方のルールを決めるなど、確かな情報リテラシーを築いてきました。その信頼の基、昨年の文芸会から、行事の映像配信をするなど新たな ICT 活用を進めてきました。そんな中、個人情報や他人の肖像権を許可なく SNS 上にあげることが垣間見られました。学校として ICT 教育を進めている信頼を損なう行為であり、残念です。これから文芸会がありますが、学校の配信映像を、スクリーンショットをとったり、コピーしたりすることがないように今一度お願いします。過去にそうしたことをしているようであれば削除してください。今後このようなことが起こるようであれば、学校での教育活動に支障をきたす恐れがあります。

SNS の利用を含めて、スマートフォン・タブレットの使用の仕方を今一度考えてください。具体的には、その内容を投稿して本当に問題がない内容なのか。「自分が」だけでなく「相手が」「周りが」見てどう思うかまで考える必要があります。インターネット上に情報を上げるといことは、一生残ることになります。自分の人生にも相手の人生にも大きく影響を及ぼします。

SNS を利用したトラブルを起こさない、巻き込まれないよう。気をつけて充実した夏休みを過ごしてください。